



アスリートのコトバ



静岡 SSU ボニータ

あんま ほのか
安間 帆乃香 選手

「継続は力なり」

私が大事にしている言葉は「継続は力なり」です。この言葉は、簡単に結果が出ない時こそ、諦めずに歩み続ける大切さを教えてくれます。

私自身も昨年、試合に出るどころか、ベンチにすら入れない、とても悔しい時期を過ごしました。

しかし、その状況に屈することなく「なでしこリーグ出場」という目標を立て、日々のトレーニングに励みました。他の選手と比較するのではなく、自分自身の成長に焦点を当て、地道に取り組み続けた結果、その努力が認められ今年はレギュラーの座を掴むことができたと思っています。

皆さんも何かに挑戦する中で思うように結果が出ない時もあるかもしれません。その時は継続することの力を信じ、諦めずに続けてみてください。どんなに小さな一歩でも、必ず目標に近づく力になると思います。

■安間 帆乃香（あんま ほのか）2004年生まれ。磐田市出身。磐田東高等学校でプレー後、静岡産業大学に進み、現在同サッカー部に所属。2023年よりプレナスなでしこリーグ1部の静岡SSUボニータでプレー。ポジションはゴールキーパー。

先日、旧竜洋町時代からご縁が続く「長野県喬木村」、旧豊田町時代からご縁が続く「長野県中野市」にお伺いしました。加えて今年の夏には、旧磐田市時代に姉妹都市提携を結んだ「フィリピン共和国ダグパン市」を訪れ、歓迎を受けました。時差が1時間ということもあり、オンラインで子どもたち同士の交流が図れないか対話を始めたところ。他にも国内の友好都

市では「長野県駒ヶ根市」「長野県伊那市」「岡山県玉野市」、海外の姉妹都市では「アメリカ合衆国マウンテンビュー市」があります。観光に来た「交流人口」でもなく、移住した「定住人口」でもない「関係人口」がこれからの時代のキーワードです。観光以上移住未満で継続的に多様な形で地域に関わる人は、人口が減少し、地域の担い手不足の時代に、住民同様に大切にすべき存在になるといわれています。本市とご縁のある地域とのつながりづくりの手始めに、ぜひ皆さんも旅行に行ったり、おいしい特産品を購入したりしてみたいかがでしょうか。



大クスの下から

第42回

キーワードは「関係人口」

市長 草地博昭